

日野市立平山小学校（2年目）

【校長】 北里 浩一
 【生徒数】 647人
 【学級数】 25学級



次の取組へ

【課題・改善】

- 「授業以外でも運動やスポーツをもっとしたいと思う児童」が目標当初数値に達しなかった。次年度の平山アクティブスポーツの取り組み方を工夫する。
 （数値目標 90%以上 アンケート 86.4%）
- 「いきいきとした生活を目指し、自分の健康を大切にするために心掛けている児童」が目標当初数値に達しなかった。次年度は授業だけでなく、保健に関わる取組を増やしていく。
 （数値目標 90%以上 アンケート 86.8%）
- 平山アクティブスポーツが長期的に継続が可能な取組となるように実施方法の工夫を更に考える必要がある。
- 保護者との連携が十分ではなく、学校の取組を保護者へ発信し、より連携を深めて研究主題に迫る取組を行うとよかった。

目標

- ・授業以外でも運動やスポーツをもっとしたいと思う児童(90%以上)
- ・生産者や作ってくれた人に感謝して食事をしている児童(90%以上)
- ・いきいきとした生活を目指し、自分の健康を大切にするために心掛けている児童(90%以上)

【成果】

- 平山アクティブスポーツの時間を設定することで体を動かす場所を設定したり、教具を効果的に活用したりすることができた。児童から出てきた反省を今年度の平山アクティブスポーツに取り入れ、より一層の運動の習慣化を図ることができた。
- 外部人材や専門家の授業を通して、本物の技術や考え方に触れることができた。
- 学校運営協議会主催による体育的活動の実施が児童の「体を動かす機会」をつくれた。
- 「生産者や作ってくれた人に感謝して食事をしている児童」が目標当初数値に達した。
 （数値目標 90%以上 アンケート 93%）
- 特別活動 学級活動(2)における「食育」「保健」に関する年間指導計画を作成することができた。

【実態・課題】

<実 態>

- 令和5年度及び6年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果が国、都、市の平均を下回る結果となった。
- 令和5年度と比較すると外遊びをする児童が増えてきている。
- 令和6年度より外で体を動かす機会や、体の動かし方を知る機会を学校で設定してきた。

<課 題>

- 給食の好き嫌いが多く、残菜が多い。
- 児童全員が主体的に取り組めるように、平山アクティブスポーツの実施の仕方を再考する必要がある。

【取組】

- 「平山アクティブスポーツ」の実施
 - ・時間確保の工夫（金曜日の30分間）
 - ・体を動かす場所の設定、多様な教材・教具の整備（竹馬・一輪車・的当て）
 - ・「スポーツとの多様な関わり方」の視点を取り入れた遊び場の工夫
- 外部人材等と連携した指導の充実
 - ・オリンピック、民間企業アスリート(陸上、ラグビー)による体育科出前授業の実施
 - ・プロ野球チーム及び笑顔と学びの体験活動プロジェクトによる体育科出前授業の実施
- 学校運営協議会共催による体育的活動の実施
- 一人1台の学習者用端末を活用した課題解決や個別最適、対話や協働に向けた授業改善
 - ・共同体育を目指した体育科授業改善
 - ・学級活動(2)における食や保健に関わる各学年年間指導計画の開発

【取組（詳細）】

「平山アクティブスポーツの実施」



的当て



鉄棒



サーキット

平山アクティブスポーツのねらい

- ・児童が様々な運動遊びを経験し、その楽しさを味わい、積極的に運動遊びに取り組む素地を養う。
- ・児童が日常的に運動遊びに親しむことを通して、学校全体で体力向上を図る。
- ・児童が運動遊びを通して、他者と関わり合いながら豊かな人間性を育む。

方法

毎週金曜日の中休みを30分の「ロングタイム中休み」と設定し、教員はアトラクションのような運動の場を用意している。児童がそれをローテーションして体験できるようにしている。

外部人材と連携した指導

- 右代啓祐選手 陸上競技 十種競技 日本記録保持者
ロンドン・リオオリンピック出場



令和6・7年度、2年連続運動会前に右代先生による「走り方教室」の実施

- 読売ジャイアンツの女子選手



読売ジャイアンツ女子選手を招いた「野球教室」の実施

- 笑顔と学びの体験活動プロジェクト
みんなの力でダンスを創ってみよう



「ダンス教室」の実施

一人1台の学習者用端末を活用した課題解決に向けた授業改善

- ・令和7年度研究授業6本
- ・体育科(体育領域：3本)
- ・特別活動 学級活動(2)
 (保健：1本 食育：2本)